

# 2011年3月期 第3四半期 決算補足資料

- 連結決算の状況
- 主要製品の売上の状況
- 開発品パイプラインの状況

## 参考資料

- ・2011年3月期第3四半期 セグメント情報
- ・2011年3月期第3四半期 業績の状況
- ・主な子会社の業績と予想

2011年2月3日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社



# 2011年3月期 第3四半期 決算概観(連結)

単位:(百万円)

	08年3月期 第3四半期	09年3月期 第3四半期	10年3月期 第3四半期	11年3月期 第3四半期	前年比	11年3月期 (予想)	前年比
売上高	62,325	66,361	74,579	75,821	1.7%	101,800	2.0%
営業利益	5,788	5,339	11,045	11,312	2.4%	14,700	10.8%
経常利益	6,278	5,451	11,860	11,848	△0.1%	15,300	7.5%
当期純利益	2,687	842	7,537	7,535	△0.0%	9,700	9.6%

## 11年3月期 第3四半期 連結業績(実績)

**【売上高】** 医療用医薬品では、(国内)新医薬品において主要製品の普及拡大に努め、薬価引下げの影響を上回る数量ベースでの伸びを示し、売上増となりました。また後発医薬品において保険調剤薬局市場での販売等が増加し、前年を上回る実績となりました。その結果、連結売上高は758億円(前年比1.7%増)となりました。

**【利益】** 売上高の増加、売上原価率の低減により売上総利益が増加し、研究開発費の増加(前年比9.8%増)を吸収しました。その結果、営業利益は113億円(前年比2.4%増)となりました。当四半期純利益は75億円(前年比:△0.0%)となりました。

## 11年3月期 連結業績(予想)

**【売上高】** ヘルスケア事業の売上減少が予想されるものの、医薬品事業では(国内)新医薬品における主要製品が下期も好調に推移する見込みであり売上増を予想します。その結果、売上高は1,018億円(前年比2.0%増)を見込みます。

**【利益】** 販売費及び一般管理費は研究開発費が増えること等から増加を見込みますが、売上高の増加と売上原価率の低減による売上総利益の増加により、営業利益は147億円(前年比10.8%増)、当期純利益は97億円(前年比9.6%増)となる見込みです。

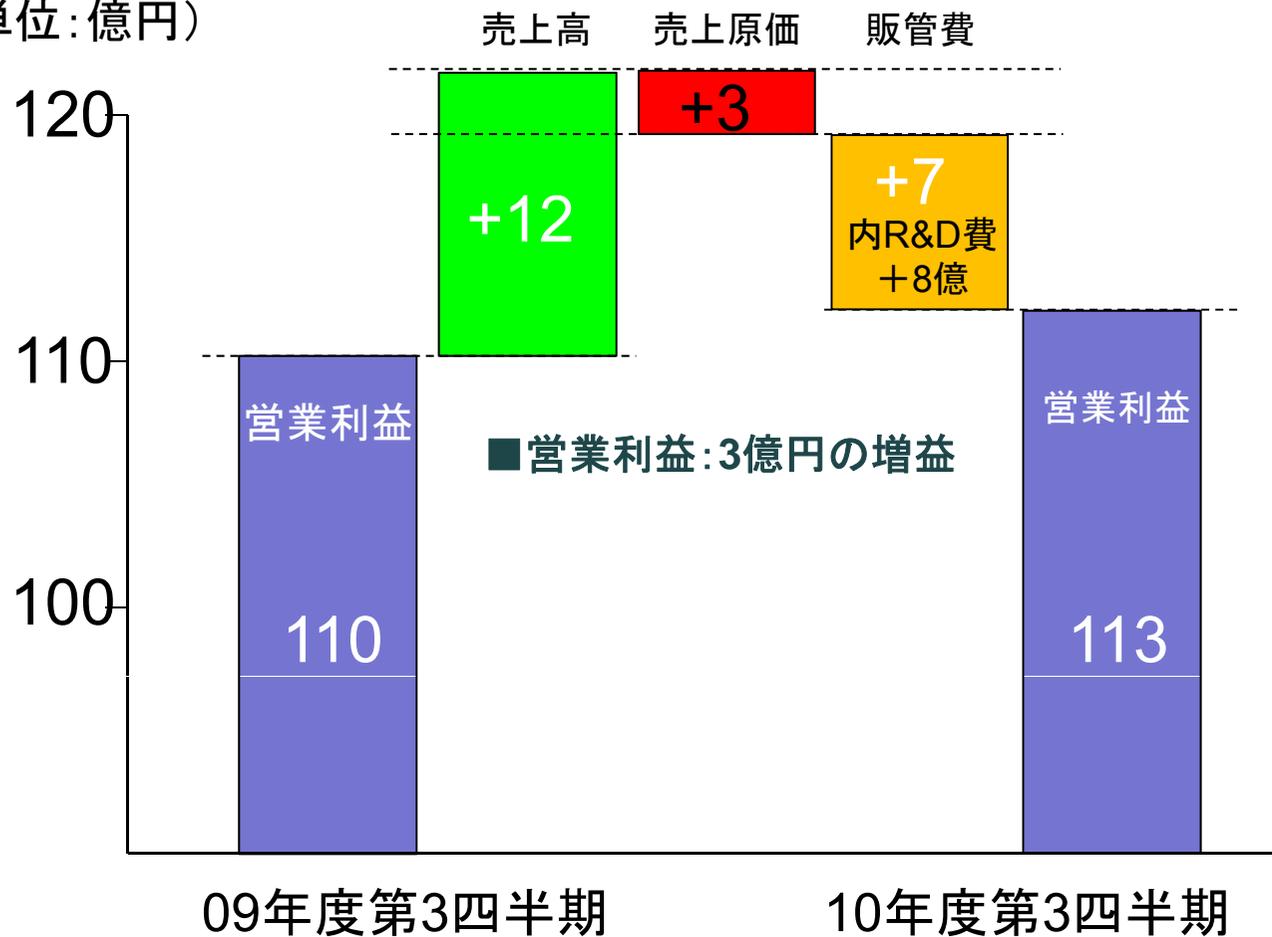
平成22年11月9日に公表しました通期(連結)業績予想につきましては、現段階で変更いたしません。(予想に対する進捗度 売上高:74.5% 営業利益:77.0%)

第2四半期までは、研究開発費の増加(パイプラインの進展)により、増収・減益でしたが、当第3四半期より、増収・増益となりました。引き続き、当社は、これまでの最高値となる通期(連結)業績予想の達成を目指します。

# 2011年3月期 第3四半期 業績のポイント

■売上高:薬価改定(杏林製薬:6%台)を吸収し、前年比12億円増

(単位:億円)



◆売上原価は3億円増

◆売上総利益が9億円増

◆販管費は7億円増  
(うち、R&D費が8億円増)

# 2011年3月期 第3四半期 業績の状況

単位:億円

	10年3月期 第3四半期 (実績)	11年3月期 第3四半期 (実績)	対前年
売上高(合計)	746	758	+12
医薬品事業	721	738	+17
◆新医薬品	631	640	+9
○国内	612	622	+10
○海外	19	18	△1
◆後発医薬品	54	65	+11
◆一般用医薬品他	37	32	△5
ヘルスケア事業 (スキンケア)	25	21	△4
営業利益	110	113	3
経常利益	119	118	△1
当四半期純利益	75	75	△0

(注1) 上記内容は簡便的に前年実績を組み替え、当第3四半期連結累計期間の実績と比較しています

(注2) 当第3四半期のセグメント【ヘルスケア事業】に属する製品・サービスの内容は、2010年3月期決算までの開示内容と異なっております

		対前年
■売上高	758億円	(+12)
◆医薬品事業	738億円	(+17)
●国内新医薬品	622億円	(+10)
	10.3(3Q)実績    11.3(3Q)実績	
・キプレス	216 ⇒ 244	(+28)
・ウリス	26 ⇒ 39	(+13)
●海外新医薬品	18億円	(△1)
・ガチフロキサシン	17 ⇒ 15	(△2)
●後発医薬品	65億円	(+11)
	* 保険調剤薬局市場での販売等が好調	
●一般用医薬品他	32億円	(△5)
	* OTC及び杏文堂の売上減	
	(注)2010年度より適用する報告セグメントにおいて当該売上区分に杏文堂を含みます。	
◆ヘルスケア事業	21億円	(△4)
●ドクタープログラムの売上減少		(△4)
■営業利益	113億円	(+3)
◆営業利益率は14.9%と0.1ポイント上昇		
●原価率は0.3ポイント低下 (36.8%⇒36.5%)		
	上昇要因: 薬価改定(6%台)	
	低下要因: 原価率の低い自社製品の売上増加、キョーリンリメディオの原価率低下	
●研究開発費率: 前年比0.9ポイント上昇 (11.1%⇒12.0%)		
	* 83億円⇒91億円(約8億円増加)	
	開発パイプラインの進展(KRP-108 Ph2b 終了など)	
●販管費率(除R&D費): 前年比0.8ポイント低下 (37.3%⇒36.5%)		
	* 278億円⇒277億円(約1億円減少)	
■当四半期純利益	75億円	(△0)

# 主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

杏林製薬	10年3月期 第3四半期	11年3月期 第3四半期	10年3月期	11年3月期 (予想)
売上高	654	672	853	908
営業利益	111	106	131	140
当期純利益	81	72	95	96

キョーリンリメディオ	10年3月期 第3四半期	11年3月期 ※1 第3四半期	10年3月期 ※2	11年3月期 (予想)
売上高	62	77	101	98
営業利益	2	5	4	5
当期純利益	2	5	4	5

ドクタープログラム	10年3月期 第3四半期	11年3月期 第3四半期	10年3月期	11年3月期 (予想)
売上高	25	21	33	28
営業利益	△2	1	△1	0
当期純利益	△2	1	△1	0

※1: 卸店販売ルート of 杏林製薬(株)への統合(10月1日)に伴い、初期在庫分を売上に計上しています

※2: キョーリンリメディオの2010年3月期業績は決算期変更に伴い14ヶ月分を計上

# 2011年3月期 第3四半期 主要製品売上の状況 *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。

(単位: 億円)

		第2四半期		第3四半期(4月~12月)			通期		
		09年度 (実績)	10年度 (実績)	09年度 (実績)	10年度 (実績)	対前年 増減率	通期 進捗率	09年度 (実績)	10年度 (予想)
国内 新医薬品	<b>キプレス</b> (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	127	141	216	244	13.3%	76.0%	292	322
	<b>ムコダイン</b> (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	93	94	160	159	△0.7%	73.2%	209	218
	<b>ペントサ</b> (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	97	99	152	151	△0.1%	77.8%	194	195
	<b>ウリス(自社販売)</b> (過活動膀胱治療剤)	16	24	26	39	51.5%	71.2%	37	55
	<b>ケタス</b> (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	23	20	36	30	△17.1%	77.3%	46	39
海外 新医薬品	<b>ガチフロキサシン</b> (バルク・ロイヤルティ含む)	11	13	17	15	△7.0%	70.8%	22	22
一般用 医薬品	<b>ミルトン</b> (哺乳びん・乳首消毒剤)	10	9	15	15	△1.3%	76.4%	19	19

# 開発品一覧①(2011年2月3日現在)

Ph II b ~ 申請中

※: 前回(2011年3月期 第2四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬 効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph III (09年12月)		ペンタサ錠	潰瘍性大腸炎	フェリング社	寛解期潰瘍性大腸炎を対象とした新用法用量 (1日1回投与)	
Ph III※ (10年11月)		ペンタサ (坐剤)	潰瘍性大腸炎	フェリング社	活動期潰瘍性大腸炎を対象とした新剤型の検討 (1日1回投与)	* 新剤型の開発
Ph III (10年8月)	(米国) スカイファーマ : 申請中(09年3月) (欧州) ムンディファーマ : 申請中(10年3月)	KRP-108 (吸入剤)	気管支喘息 治療剤	スカイファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利 便性やコンプライアンスに優れる	・スカイファーマ社とライセン ス契約(08年4月) ・国内Ph II 終了(10年4月)
Ph II (05年3月)	エーザイ: Ph III	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害 を改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ)
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	・海外Ph II b開始 (09年11月) ・国内Ph II b終了(10年3月)

## その他の事項

・過活動膀胱治療剤「イミダフェナシン(一般名)」の口腔内崩壊錠 : 2010年11月承認 ※

# 開発品一覧②(2011年2月3日現在)

POCプロジェクト(前臨床～Ph II)

※: 前回(2011年3月期 第2四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (10年8月)	KRP-110	オピオイド誘発性 便秘 難治性掻痒	自社	選択性の高いμオピオイド受容体拮抗薬。オピオイド鎮痛薬の鎮痛作用には影響することなく、副作用の便秘を改善することが期待される。また、種々の掻痒モデルにおいて掻き行動の抑制作用が確認されており、難治性掻痒の改善が期待される。	
Ph I ※ (10年12月)	Ph II (POC)※ (10年12月) (ノバルティス)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティスとライセンス 契約(06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph II 準備中	Ph III (Merz社)	KRP-209	耳鳴	Merz社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月) メルツ社: 日本人を 対象とした米国でのPh I を終了(10年3月)

# 開発品一覧③(2011年2月3日現在)

## 導出品の状況

※: 前回(2011年3月期 第2四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、韓国、 台湾を除く全世界における独占的な開発、製造販 売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス	海外PhⅡ(POC) ※ (10年12月)	自己免疫疾患、 臓器移植 IBD	自社	・移植用の免疫調節剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤とし て、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)

# 参考資料

# 2011年3月期 第3四半期 セグメント情報

報告セグメントごとの売上高および利益又は損失

単位:億円

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
売上高合計	758	+12	113	+3
医薬品事業計	738	+17	110	—
◆新医薬品	640	+9		
○国内	622	+10		
○海外	18	△1		
◆後発医薬品	65	+11		
◆一般用医薬品他	32	△5		
ヘルスケア事業計	21	△4	1	—
調整額	△1		2	—

(注1) 第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

(注2) 上記内容は簡便的に前年実績を組み換え、当第3四半期実績と比較しています

# 2011年3月期 第3四半期 業績と予想(連結)

(単位:百万円)

	第2四半期		第3四半期(4月~12月)				通期		
	09年度 (実績)	10年度 (実績)	09年度 (実績)	10年度 (実績)	前年 差額	前年比	通期 進捗率	09年度 (実績)	10年度 (予想)
売上高	45,714	46,707	74,579	75,821	+1,241	1.7%	74.5%	99,764	101,800
医薬品事業	44,115	45,373	72,079	73,751	+1,671	2.3%	74.5%	96,421	99,000
◆新医薬品	38,011	39,208	63,068	64,033	+965	1.5%	74.2%	82,395	86,300
○国内	36,733	37,708	61,176	62,188	+1012	1.7%	74.4%	79,766	83,600
○海外	1,278	1,500	1,891	1,844	△47	△2.5%	68.3%	2,629	2,700
◆後発医薬品	3,584	4,115	5,352	6,498	+1,146	21.4%	76.4%	8,642	8,500
一般用医薬品他	2,519	2,049	3,658	3,218	△439	△12.0%	78.5%	5,384	4,100
ヘルスケア事業	1,599	1,333	2,474	2,070	△404	△16.3%	73.9%	3,342	2,800
営業利益	4,569	4,201	11,045	11,312	266	2.4%	77.0%	13,261	14,700
経常利益	5,172	4,542	11,860	11,848	△12	△0.1%	77.4%	14,234	15,300
当期純利益	3,293	2,959	7,537	7,535	△2	△0.0%	77.7%	8,848	9,700

(注)上記内容は簡便的に前年実績を組み替え、当第3四半期および通期連結実績と比較しています